

1st day
5.15 Sat.

特別報告 ■時間/ 16:30 ~ 17:00 ■会場/ 4F 大研修室

テーマ●「生涯現役の方法 —「生きがい」の構造—」
三浦清一郎

2nd day
5.16 Sun.

特別企画 ■時間/ 9:00 ~ 11:30 ■会場/ 講堂
リレーインタビュー・ダイアローグ

■第1部 (9:10 ~ 9:40)

女子商『企業市場』は高校生の何を変えたか?

インタビューイー●岡野 利哉 (福岡女子商業高等学校 教諭)



商業科の体験実習として、マーケットの開発・管理の一貫プログラムを導入し、協力企業と連携して、商品企画—仕入れ—検取—値付け—販売—経理の流れを高校生に担当させ、オリジナル商品の開発までを手がけた。当然、学校は事前の校内外の研修を充実させ、生徒は関係企業におけるインターンシップに参加した。結果的に、女子商マルシェ(市場)は祭りのような活況を呈し、地域とのつながりが強化され、集客数12,000人、売り上げ1,200万円の実績を上げて成功裡に終了した。実習過程において生徒は、接客、金銭授受、商品知識、ホスピタリティ精神などと格闘している。学校の教育思想、教職員の連帯、企業との協働方法、地域からの反応、生徒の評価と感想などを聞きたい。

インタビューワー●森本 精造 (福岡県飯塚市教育長)



福岡県社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育長を経て現職。穂波町時代、西日本で初めての「学校選択制」の導入。全公立小学校に導入した穂波「子どもマナビ塾」、合併後の飯塚市では「熟年者マナビ塾」などの多くの先駆的行政施策の開発を手がけて来た。中国・四国・九州地区生涯学習実践研究交流会代表世話人。

■第2部 (9:45 ~ 10:15)

学童保育になぜ教育プログラムが不可欠なのか?

インタビューイー●上野 敦子 (山口市井関学童保育 指導員)



山口県生涯学習推進センターの研修を機に、通常の学童保育にボランティア指導者を招いて教育プログラムを導入した。夏休みの一定期間から始めたプログラムが全期間に広がり、子どもの向上はもとよりボランティアも、指導員自身も、保護者との関係も、学校との関係も大幅に改善された。プログラム名は「井関夏休み元氣塾」。指導の基本理念は行動耐性と欲求不満耐性の形成。方法論の中核は規律ある暗誦—朗唱—各種の実体験と成果の発表。関係者は何ができなかったのか、何ができるようになったのか、何が分からなかったのか、何を分かるようになったのか、それぞれはどんな役割を果たしているのか。「元氣塾」がもたらした向上・変化の中身と方法を聞きたい。

インタビューワー●大島 まな (九州女子短期大学 准教授)



山口県の地域指導者養成プログラムや北九州市若松「未来ネット」事業の実践指導を手がけるかたわら、北九州市社会教育委員、文部科学省中央教育審議会教育振興基本計画策定特別部会委員、福岡県生涯学習審議会委員などを務める。共著に『生涯学習をとりまく社会環境』(学文社)、『よくわかる生涯学習』(ミネルヴァ書房)等がある。